

FIRST STEP

～安定した技術（再現性）をつくる～

いつでも、どこでも、同じように

— 確かな「実践力（再現性）」を
身につける —

第1号の「始める」、第2号の「伝わる」を経て、みんなの技術は着実に進化しています。

3級を受検する人にとって、検定直前となる今回のテーマは、「再現性を高める」ことです。

再現性とは、どんな緊張感の中でも「いつも通り」を発揮できる力。「家ではできたのに」を無くし、いつでも同じクオリティで動けること。それこそが、現場で子どもの命を預かるプロの「実践力」です。

本番であなたを支えるのは、これまで積み重ねた練習の記憶だけ。「いつでも任せて！」という自信に変えるまで、最後の仕上げを丁寧にやっていきましょう！

R8 検定（前期）申込状況

（兵庫県比較）

		3級	2級	準1級	1級
音楽	県申込者数	406	111	44	21
	本校申込者数	16	9	3	2
造形	県申込者数	682	233	52	3
	本校申込者数	14	3	6	1
言語	県申込者数	645	123	73	2
	本校申込者数	12	6	6	1
看護	県申込者数	321	118	77	6
	本校申込者数	8	6	6	4
合計	県申込者数	2054	585	264	32
	本校申込者数	50	24	21	8
	級全体・県申込	—	—	—	—
	級全体・本校申込	9	3	3	—

※「合計」欄について：音楽・造形・言語・看護の4種類の合格実績を合算した「延べ人数」です。

※「級合格」について：今回4種目すべてに合格すれば、その級を完全に取得（全種目制覇）となる人数を指します。

令和8年度（前期）検定申込状況：兵庫県比較

— 兵庫県との比較から見える、本校生の「高い志」 —

今期の申込状況を「兵庫県全体」のデータと比較したところ、本校のチャレンジ精神の高さが数字としてハッキリと証明されました！

1級の「4人に1人」が本校生！

兵庫県全体の1級申込者数「32名」のうち、なんと8名（25%）が本校の生徒です！県内の1級チャレンジャーの4人に1人が本校生という、驚異的なトップランナーぶりを見せています。

特に「家庭看護1級」は圧倒的！

県全体でわずか6名しかいない最難関の「家庭看護1級」ですが、そのうち4名が本校生です。昨年度の「合格率100%」という実績が、みんなの大きな自信と高い背伸び（挑戦）に繋がっています。

上位級（準1級・1級）への高い集中度

県全体の申込割合を見ると、大半が3級・2級に集中しています。しかし本校は、全体の約3割（103名中29名）が「準1級・1級」にエントリー。現状に満足せず、より高度な専門性を目指す受験スタイルが本校の強みです。

⚠️【重要】高い志を「確かな合格」にするために

これほど多くの生徒が上位級（準1級・1級）に挑む本校だからこそ、あえて伝えます。

上位級の検定は、これまでとは比べものにならないほど難易度が高くなります。

求められる技術の精度、筆記試験の専門性、どれをとっても「なんとなく」では絶対に突破できない高い壁です。

エントリーはスタートラインに過ぎません。ここから本番までにどれだけ密度の濃い練習を重ねられるかが、合否のすべてを分けます。先輩たちの「合格率100%」という伝統に続くため、圧倒的な練習量で、確かな実力を掴み取りましょう！

📚 再現性とは

- 毎回同じ流れでできる
- 緊張しても崩れない
- 安定して力を出せる

➡️「たまたまできた」から「いつでもできる」へ

👉 合格する人の共通点（再現編）

合格をつかむ人は、技術を「無意識」のレベルまで高めています。

- ・ **自動化**：頭で考えなくても、勝手に手が動く
- ・ **ルーティン化**：どんな緊張感の中でも、いつも通りに動ける
- ・ **修正力**：途中でミスしても直ぐに立て直せる

【先輩の一言】

〇「考えなくても勝手に手が動くくらい、くり返し練習した」

あの合格者も
やっていた！

安定編！その一歩先へ 分野別ワンポイント

～合格への道～

【音楽】

☑ 指の動きを固定する：

毎回同じ指使いで弾けるよう、運指を迷わないレベルまで叩き込む。

☑ テンポを一定に保つ：

緊張で走りがち（早くなりがち）なメトロノームの感覚を、体で覚える。

【造形】

☑ 作業の順番を決める：

下書きから仕上げまでの「マイルーティン」を固定する。

☑ 時間配分を意識する：

残り時間に応じた「今やるべき作業」を感覚でつかめるようにする。

【言語】

☑ 話す流れを固める：

お話の文字ではなく、「お話の情景」を頭の中に固定する。

☑ 同じポイントで間を取る：

毎回必ず「ここで 1 秒ストップ」という息継ぎの場所を決めておく。

【看護】

☑ 手順を完全に覚える：

次に何をすべきか、頭で考える前に「体（指先）」が動く状態を作る。

☑ 一連の流れで動く：

動作と声かけを一つのセット（ルーティン）として、滑らかに連動させる。

【先輩の一言】

〇「流れを決めたら迷わなくなった」

※上位級は筆記も難化します。早めの対策を！

◆ 今やること（実践ステップ）

「たまたまできた」を「いつでもできる」に変えるためのトレーニングです。

- 同じ内容を 3 回連続でやってみる
- 3 回ともまったく同じようにできたか確認する

📎 【ミニワーク】

プレしたポイント・今日の課題をメモしよう！

（例：2 回目に早口になった → 句読点でしっかり 1 秒ストップする！）

⚠ よくあるつまづき（ここを変えれば「いつでもできる」に！）

- ぶっつけ本番（手順があいまい） ➡ 思い出しながら動いている
- 練習不足（1 回で満足） ➡ 体が覚える前に終わっている
- 我流（毎回違う） ➡ 気分で手順やテンポが変わっている
→ 「いつも同じ」の繰り返し、ブレない技術（再現性）を作ります！

【先輩の一言】

〇「毎回同じ流れでやるようにしたら緊張しても体が勝手に動いて安定した！」

📖 特集：言語表現技術を極める！

～どんな緊張の中でも、子どもの心を惹きつける～

言語検定の「再現性」を高める鍵は、お話の丸暗記ではありません。緊張した本番でも、目の前に「子どもの笑顔」をパッと作り出せる、プロの魅せ方をマスターしましょう！

【間（ま）】のキープカ

緊張するとどうしても早口になり、お話が短くなりがちです。「。」や「、」では、意識して心の中で 1 秒数えるクセをつけ、いつでも落ち着いたテンポを再現しましょう。

目線の「配り方」

視線が泳ぐと、お話の世界が崩れてしまいます。目の前に「座っている子どもたち（左・中・右）」の姿を具体的に思い浮かべ、順番に優しく目を合わせる視線のルートを固定しましょう。

第一声の「トーン」

お話の成否は、最初の「題名」のトーンで決まります。部屋の空気を一瞬で変えるような、いつもよりワントーン高い「明るい生きた声」を、最初の 1 秒で確実に発揮できるように練習します。

言語の重要ポイント（メモしておこう！）

- ・ 句読点で 1 秒ストップ： ➡ 早口を防ぎ、子どもが聞き取りやすくなる！
- ・ 視線のルートを固定： ➡ 目の前の子ども全員にお話を届けられる！
- ・ 第一声はワントーン高く： ➡ 照れを捨てて明るい声でお話の世界へ引き込もう！！

💡 今年度の戦略：最高の「いつも通り」を本番で！

Step 1：録画・録音して客観視しよう

➡ 自分の実技を動画で撮り、「間」や「トーン」、視線を自分で厳しくチェック！

Step 2：緊張感を味方につけよう

➡ 友達や先生の前で「本番とまったく同じ手順」で発表し、人前に慣れる！

☑ 担当教諭より ～その「一歩」を、確かな力に変えるために～

「繰り返し」が本物の自信をつくります。これまでの「量」が、あなただけの「質の高い表現」へと変わる段階です。一緒に頑張りましょう！

📅 編集後記

- 1 回「できた」だけで満足せず、もう 1 回やってみよう
- 「いつでも、どこでもできる！」と言えるまで繰り返し練習しよう

お知らせと注釈

- ・ 本文の保育検定各種目は「音楽」「造形」「言語」「看護」と略記しています。
- ・ 一部画像（「一歩」を象徴するシルエット等）は Google AI により生成したものを加工して使用しています。